

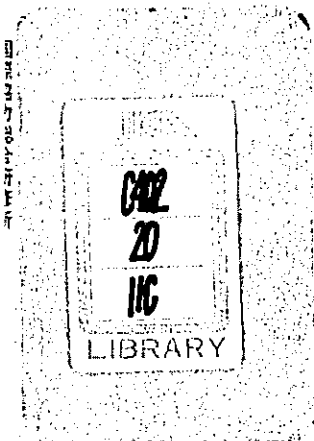
派遣専門家オリエンテーション資料

# ブルンディ

REPUBLIC OF BURUNDI

## 任国情報

1991年



国際協力事業団  
国際協力総合研修所

国際協力事業団

17578

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とその御家族の多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

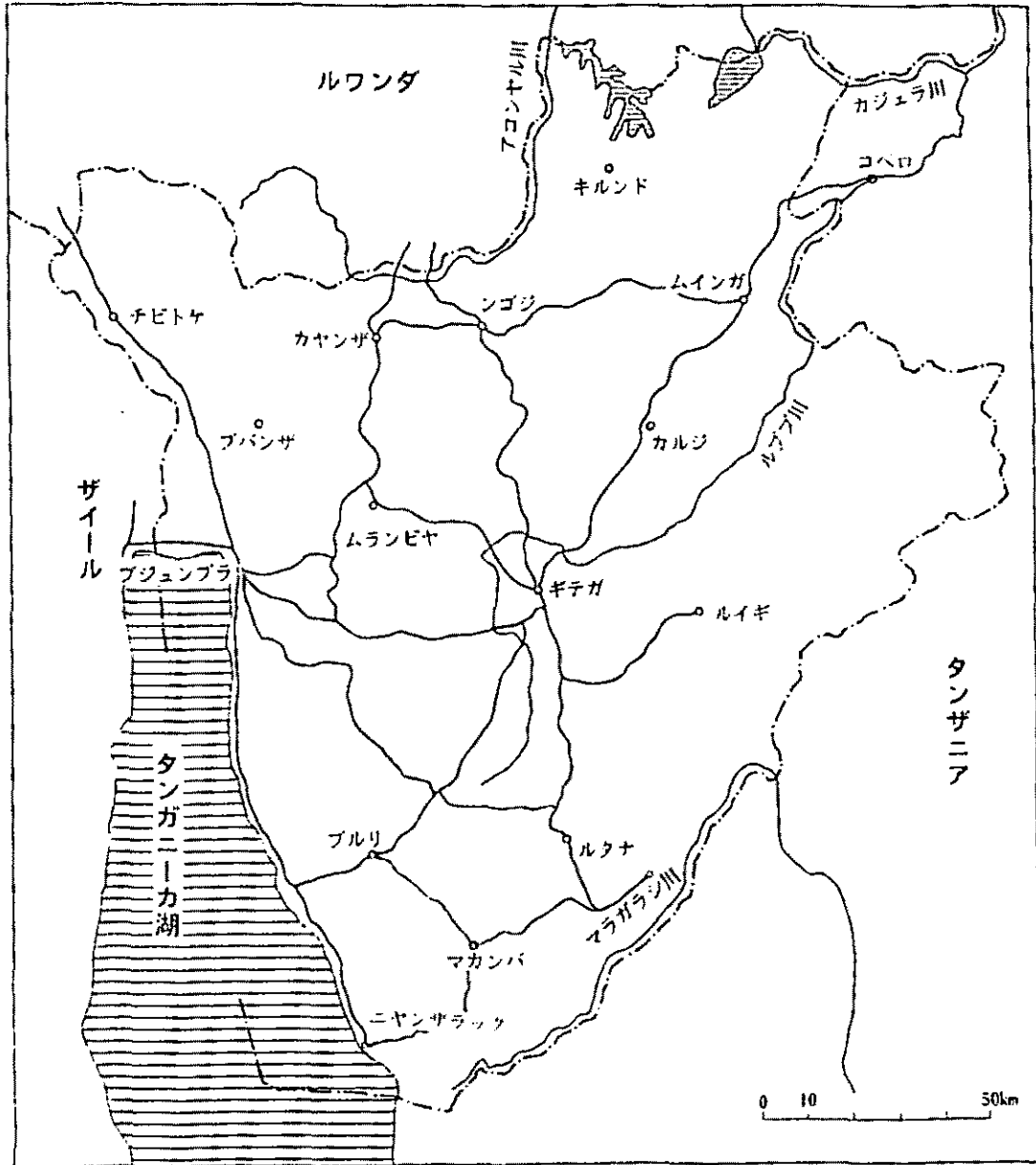
平成 3年 3月

国際協力事業団  
国際協力総合研修所所長



17592

ブルンディ



## 目 次

### I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治、外交	4
4. 経済事情	5
5. 我が国との関係	7

### II 生活事情

1. 食生活	10
2. 衣 料	13
3. 住 宅	15
4. 医 療	17
5. 教 育	19
6. 家庭の使用人	21
7. 交通事情	22
8. 通 信	23
9. マスコミ	24
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	25
11. その他のサービス	28
12. 観 光	29
13. 治安、緊急時の心得	30
14. 出入国手続および帰国手続	31
15. 私財の輸送、引き取り、購入	34
16. 社 交	36
17. 任国官公庁	37
18. 在外日本関係機関など	38
19. 地方都市	39

フランス語の表記に関して、アクセント記号などは省略しましたので、ご了承下さい。

## I 一般事情

### 1. 主要指標

- 1-1 国名                   ブルンディ共和国  
 Republic of Burundi
- 1-2 独立                   1962年 7月 1日 (旧宗主国:ベルギー)
- 1-3 首都                   ブジュンブラ Bujumbura  
 人口 25万人 (1989年)
- 1-4 面積                   2万 7,866平方キロメートル (四国の約 1.5倍)
- 1-5 気候                   1年は乾季と雨季の 2大季節に分類されるが、大雨季 (2  
 ~ 5月)、大乾季 (5~ 8月)のほか、小雨季 (9~11月)、  
 小乾季 (11~ 2月)に細分類される。  
 温度は高度差で異なり、首都ブジュンブラの高度は 730  
 ~ 800メートルで、タンガニーカ湖畔沿いの傾斜地のため、  
 高温多湿地帯である。乾季には30℃を超えることが多い。  
 その他の地域、国土の大半が 1,500~ 2,500メートルの高  
 原地帯で占められ、年間平均気温は21℃である。

表1 ブジュンブラにおける平均気温・降水量表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温(℃)	23.2	23.1	23.0	23.0	23.2	22.9	22.5	23.4	24.0	23.8	22.9	22.9
降水量(ミリ)	69.6	105.7	135.6	134.0	58.5	10.5	0.4	10.7	31.5	73.9	91.8	109.3

- 1-6 人口                   522万人 (1989年)  
 人口密度 1平方キロメートル当たり 187.3人  
 人口増加率 2.9% (1980~88年平均)
- 1-7 人種構成               バンツー系フツ族           80%  
 ハム系ツチ族               18%  
 ピグミー系ツワ族           2%
- 1-8 言語                   フランス語 (公用語)、キルンディ語
- 1-9 宗教                   キリスト教  
                           カトリック               65%  
                           プロテスタント           10%  
                           伝統的宗教               21%

イスラム教 2.5%

1-10 政治

- (1) 政体 大統領制の共和国
- (2) 元首 ピエール・ブヨヤ大統領 (Pierre Buyoya、1987年9月の軍事クーデターによりバガザ大統領を追放した)
- (3) 議会 1院制国民議会 (定員65人)
- (4) 政党 国民統一進歩連合 (UPRONA) の1党支配

1-11 経済

- (1) GNP 12億ドル (1988年)  
1人当たり 230ドル (1988年)
- (2) 主要産業 農業 (主としてコーヒー、次いで綿花、茶など)
- (3) 貿易 輸出 (FOB) 8,400万ドル (1989年)  
輸入 (CIF) 1億3,500万ドル (1989年)
- (4) 財政 歳出 14億5,000万ブルンディ・フラン (1983年)  
歳入 15億ブルンディ・フラン (1983年)  
(ブルンディの会計年度は1~12月)
- (5) 通貨 通貨単位 ブルンディ・フラン (Burundi Franc)  
1ブルンディ・フラン=100 Centime  
為替相場 1ドル=162.8ブルンディ・フラン (1990年12月21日)
- (6) 外貨準備高 9,960万ドル (1989年)
- (7) 対外債務 7億4,900万ドル (1988年)

1-12 日本との時差

時差は7時間で、日本の正午はブルンディの午前5時である。

1-13 祝祭日

- 1月1日 新年
- 5月1日 メーデー
- 7月1日 独立記念日
- 7月24日 キリスト昇天祭
- 8月15日 聖母被昇天祭
- 9月18日 UPRONAの勝利
- 10月13日 国民的英雄プリンス・ルイ・ルワガソレの年回忌
- 11月1日 万聖節
- 12月25日 クリスマス

## 2. 略 史

17世紀頃	ギテガ付近を中心とする王国成立
1899年	ドイツ保護領
1922年	ベルギー委任統治
1946年	ベルギー信託統治
1962年 7月	独立
同年 10月	立憲君主制を定めた憲法公布
1966年11月	ミコンベロ大尉、クーデターにより王制廃止。共和国を宣言し、大統領に就任。憲法は停止
1974年 7月	新憲法制定
同年 11月	ミコンベロ中將（73年、大尉より昇進）、大統領兼首相に就任
1976年11月	バガザ大佐、クーデターにより政権掌握、大統領に就任。憲法停止。 スザンビマナ中佐、首相として新政府組織
1978年10月	内閣改造（首相ポスト廃止）
1981年11月	新憲法採択
1982年10月	初の国民議会選挙実施
1984年 8月	初の大統領選挙、バガザ大統領再選
同年 12月	ブジュンブラでフランス・アフリカ首脳会議開催
1987年 9月	クーデターにより、バガザ大統領は追放され、ツチ族のブヨヤ新政 権が成立



### 3. 政治、外交

#### 3-1 最近の政情

ブルンディでは少数部族であるツチ族が多数部族のフツ族を支配する形となっており、両部族の対立問題が独立以来1970年代前半まで、同国内政の中心課題であった。しかし、76年政権についたバガザ大統領は部族融和に意を用いた。現在対立は鎮静化しているが、避難民の問題が山積しており、未解決である。

バガザ大統領は1984年7月の国民統一進歩連合（UPRONA）第2回党大会において党首に再選され、8月、同国初の大統領選挙において国民の信任を受けた。同大統領は9月には小規模な内閣改造を行ない、政権の基盤を強化した。

最近、政府の人口抑制政策をきっかけに政府とカトリック教会との対立が表面化した。教会は同国内に大きな影響力を有し、唯一の反体制勢力とも目されるところ、特に多数派の被支配部族フツ族の潜在的な不満を代弁するとも考えられ、ツチ族支配層には教会との対立深刻化への懸念がある。

1976年のクーデターで政権を掌握したバガザ大統領は部族間融和に意を用いてきたものの、87年9月に発生したクーデターにより追放され、ブヨヤ新政権（ツチ族支配であることに変わりはない）が成立したが、現在のところ政局は流動的である。

1990年9月5日、ローマ法王がブルンディを初訪問、ブジュンブラ、ギテガの教会を訪問しており、政府との融和政策に特別配慮するようになった。

#### 3-2 外 交

ブヨヤ政権は、従来東側寄りであった外交政策を改め、非同盟・善隣外交を基軸としつつ、より開放的な外交を展開しており、最近は経済協力を獲得する観点から西側諸国との関係緊密化に努めている。

内陸国であることから周辺諸国との友好関係維持にも努力しており、特にザイール、ルワンダとは大湖経済共同体（Communaute Economique des Pays des Grands Lacs : CEPGL）を形成し、関係緊密化をはかっている。

#### 4. 経済事情

##### 4-1 概 観

L L D Cであり、資源の乏しい国土に高密度の人口をかかえる内陸国という制約がある。経済は農業が基盤であり、G D P 構成比で54%を、また労働人口の90%以上を農林漁業が占めているが、伝統的自給自足農業が中心であり、換金作物の割合は低い。換金作物はコーヒーが中心であり、輸出収入の73%はこれに依存している。

1986年から世銀・I M Fの支援を得て構造調整計画を実施し、農業生産の強化を中心に農業基盤および運輸施設の整備、為替レートの切下げ、関税の合理化などを推進している。この結果、88年には経常収支の赤字の縮小、インフレ抑制などについて効果が表われてきており、また、コーヒーの輸出収入の増大などにより、G D P 実質成長率は約 3.5%に達している。

##### 4-2 産 業

1988年のG D P の産業別構成 (%) は、次のとおりである。

農 業	56.0
工 業	15.0
製造業	10.0
サービス	29.0

ブルンディは労働人口の約96%が農業に従事する農業国である。その農業形態は、伝統的な自給自足的農業といった性格が濃厚で、換金作物のシェアが低い。換金作物の中心はコーヒーである。

農業以外の産業としては、タンガニーカ湖における漁業がある。同湖の漁業資源は豊富だが、現在のところ開発は進んでいない。

##### 4-3 財 政

アフリカ最貧国のひとつである。農業が主でコーヒー・綿花・茶などが換金作物である。輸出の88%を占めるコーヒーの生産は順調だが、経済は全体に後退し、債務増加により1983年11月に平価を30%切り下げた。

第4次5ヵ年計画(1983~87年)で製造工業部門と農業の振興を目指しており、85年2月に51の国や国際機関に、同計画推進のため総額15億5,600万ドルの援助を要請している。

なお、財政収支は、1984年が109億7,900万ブルンディ・フラン、85年が50億1,100万ブルンディ・フランであり、対外債務残高は、84年が33億4,000万ドル、85年が41億5,300万ドルである。

4-4 貿易、国際収支

(1) 貿易

表1 主要貿易品目 (1988年)  
(単位：100万ドル)

輸出品		輸入品	
コーヒー	110.4	生産財	76.3
茶	5.2	機材	69.8
綿花	0.8	消費財	59.6

表2 主要貿易相手国 (1988年) (単位：%)

輸出国		輸入国	
西ドイツ	29.1	ベルギー・ルクセンブルグ	16.7
ベルギー・ルクセンブルグ	9.5	フランス	12.4
オランダ	7.0	イラン	10.7
アメリカ	6.9	日本	10.1

(2) 国際収支

貿易収支	▲ 4,170万ドル (1988年)
貿易外収支	▲ 1億 3,180万ドル (1988年)
長期資本収支	8,230万ドル (1988年)
短期資本収支	490万ドル (1988年)

5. 我が国との関係

5-1 政治、外交

我が国は、ブルンディが独立以来友好関係を維持しており、在ザイール大使館がブルンディを兼轄している。先方は在中国大使館が我が国を兼轄している。

5-2 経済、貿易

我が国は、ブルンディからコーヒーなどを輸入しており、1989年の輸入額は710万ドルである。輸出品としては、自動車、鉄鋼板などがあり、89年の輸出額は1,700万ドルである。

5-3 経済・技術協力

我が国は、無償資金協力および技術協力を中心に援助を実施している。無償資金協力については食糧援助、食糧増産援助を中心に、運輸・交通、保健・医療などの分野における協力を行っており、技術協力については研修員受入れを中心に実施している。

また、ブルンディの構造調整努力を支援するため、「アフリカ基金」とのS J Fとして1986年度に「構造調整計画（Ⅰ）」に対し16億円の円借款をはじめて供与し、88年度にも「構造調整計画（Ⅱ）」に対し17億円の円借款を供与したほか、89年度にはノンプロジェクト無償援助（3億円）を実施した。

D A C 諸国は1988年支出純額で8,292万ドルの2国間O D Aを供与しており、贈与が74.6%を占めている。主要援助国はフランス、ベルギー、西ドイツ、日本などである。

国際機関は1988年支出純額で1億8,502万ドルのO D Aを供与しており、主要援助機関はI D A、E D F、A f D Fなどである。

表1 我が国のO D A実績

(支出純額、単位：100万ドル)

暦年	贈与			政府貸付		合計
	無償資金協力	技術協力	計	支出総額	支出純額	
85	1.39(0.2)	0.26(0.0)	1.65(0.1)	— (—)	— (—)	1.65(0.1)
86	5.74(0.7)	0.29(0.0)	6.22(0.4)	— (—)	— (—)	6.02(0.2)
87	5.10(0.4)	0.30(0.0)	5.41(0.2)	5.54(0.1)	5.54(0.2)	10.94(0.2)
88	3.02(0.2)	0.34(0.0)	3.36(0.1)	6.24(0.1)	6.24(0.2)	9.60(0.1)
89	7.56(0.5)	0.72(0.0)	8.28(0.3)	2.62(0.1)	2.62(0.1)	10.90(0.2)
累計	34.50(0.4)	2.07(0.0)	36.56(0.2)	14.40(0.0)	14.40(0.1)	50.95(0.1)

(注) カッコ内は、我が国2国間O D A各形態別総計に占める割合(%)。

表2 年度別・形態別実績

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1984年度 までの 累 計	なし	34.96億円 社会環境整備計画 (79年度：5.00) 医療器具供給計画 (79年度：1.00) 道路整備計画 (80年度：5.00) 医療器具供給計画 (80年度：2.00) 公共輸送力増強計画 (81年度：2.80) 食糧増産援助 (81年度：2.00) 食糧援助 (82年度：4.66) 難民向け食糧援助 (82年度：1.80) 公共輸送力増強計画 (83年度：3.20) 食糧増産援助 (83年度：3.00) 食糧増産援助 (83年度：3.00) 緊急食糧援助(UNICEF 経由)(84年度：2.50)	0.58億円 研修員受入れ 5人 専門家派遣 1人 調査団派遣 12人 機材供与 2.5百万円
1985年度	なし	11.00億円 バス整備工場建設計画 (6.00) 食糧援助 (1.50) 食糧増産援助 (2.50)	0.54億円 研修員受入れ 4人 専門家派遣 1人 機材供与 5.0百万円

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1986年度	16.00億円 構造調整計画(I) (16.00)	8.89億円 バス整備工場建設計画 (4.89) 食糧援助 (1.50) 食糧増産援助 (2.50)	0.41億円 研修員受入れ 4人 専門家派遣 1人 機材供与 0.7百万円
1987年度	なし	10.00億円 公共輸送力増強計画 (7.00) 食糧増産援助 (3.00)	0.47億円 研修員受入れ 4人 調査団派遣 2人 機材供与 3.6百万円
1988年度	17.00億円 構造調整計画(II) (17.00)	4.00億円 食糧増産援助 (4.00)	0.96億円 研修員受入れ 9人 調査団派遣 14人
1989年度	なし	11.27億円 ギテガ市バスガレージ 等建設計画(I) (4.58) ノンプロジェクト援助 (3.00) 食糧増産援助 (3.50) 債務救済 (0.19)	0.54億円 研修員受入れ 8人 専門家派遣 1人 機材供与 1.1百万円
1989年度 までの 累計	33.00億円	80.12億円	3.49億円 研修員受入れ 34人 専門家派遣 4人 調査団派遣 28人 機材供与 12.9百万円

- (注) 1) 「年度」の区分は、有償資金協力は交換公文締結日に、無償資金協力および技術協力は予算年度による。  
2) 「金額」は、有償資金協力および無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

## II 生活事情

### 1. 食生活

#### 1-1 食料

##### (1) 一般事情

食料品は一般に現地産よりも輸入品が多い。主食類、副食類、調味料、嗜好品などは現地で調達できる。しかし、米は日本米品質のものはない。また、みそ、しょうゆ、ソースなどの調味料も日本的なものはないので、携行する人が多い。

副食類の魚、肉、野菜類は現地産も多く、輸入冷凍品も多いので、生活に不便はない。価格は輸入品は高くなりがちであるが、日本と比較して安いものもある。しかし、内陸国のため、内陸輸送費が高く、一般に割高である。

##### (2) 主な食料の出回り状況

主食類——穀類は現地産、輸入品があり、外国からの援助米が出回っている。市内の食料品店、スーパーマーケット、中央市場で求めることができる。価格は1キログラム110～130ブルンディ・フラン（90～110円、以下フランと略す）である。パン類は輸入小麦粉で製造するパン屋が3軒あり、フランス式パンである。価格はバゲット1本40フラン（35円）、食パン1斤150フラン（120円）と固定されている。そのほか、スパゲティ、コーンフレーク類は、スーパーマーケット（Clochd'or またはDimitori）や、各地域ごとの食料品店（Alimentation）で購入できる。

副食類——魚類は現地（タンガニーカ湖）産のクーヘン、サンガラ、ダガラ、キャビテンなど美味しいものがある。タコ、イカ、エビなどは輸入冷凍品で非常に高い。

肉類は生肉、加工品ともわりあい豊富で、肉屋は3軒ある。価格も日本に比較して非常に安く出回っている。豆類は現地産で、現地での主食であるので安価に求めることができる。

野菜類は現地産で十分間に合うが、専門の八百屋が2軒ある。また、中央市場にも大量に出回っている。しかし、日本の大根、ゴボウ、ほうれんそう類、白菜などはなく、ケニアから搬入している。野菜（ネギ、ピーマン、にんじん、かぼちゃ、アスパラガス、レタス、セロリ、ナス、キャベツ、カブ、トマト、カリフラワー、タマネギ、芽キャベツ、グリーンピースなど）、いも類（じゃがいも、さつまいも、さといもなど）の入手は容易である。日本に比較して安いものが多い。

果物類——果物類は豊富である。スイカ、イチゴ、バナナ、パパイア、アボカド、ミカン、マンゴー、レモンなどが代表的果物である。輸入品は高価で、オレンジ、ブドウ、リンゴ、モモ、イチジク類がある。（例：小さなリンゴは1個500フランぐらい）

乳・乳製品——牛乳、ヨーグルト、チーズ類は輸入品が、衛生上・品質上安心して使用できる。牛乳は現地産は安い、輸入品は高価で1箱（1リッ

トル) 1,000円ぐらいである。

卵類——自然卵、養鶏卵ともに品質のよいものが出回っている。日本に比較して価格は非常に高い。スーパーマーケット、肉屋、八百屋で求めることができる。

油脂製品——バター、マーガリン、マヨネーズなどは輸入品が多く出回っている。現地産バターもあるが、輸入品が安心して使用できる。主として、スーパーマーケットあるいは地区の食料品店で求めるのがよい。

食用油——輸入品で、品数は少ない。

嗜好品——ジャム(アンズ、イチゴ、ブドウ)およびマーマレードなどは輸入品のみで、850～900フランである。また嗜好飲料は、現地産ビールは2種類、ジュース類、ブドウ酒(赤・白)、ウイスキー、ブランデー類は種類が豊富にある。これらは輸入品で日本より安く求めることができる。種実類は、落花生、アーモンド、クルミなどがあるが、現地産の落花生がもっとも多い。

菓子類——輸入品が箱入りで販売されているが、アイスクリーム、ソフトクリームは、ホテルまたは一流レストランで購入できる。スーパーマーケットにもあるが、低品質のものがあるので、要注意である。

調味料——日本の調味料、みそ、しょうゆ、味の素類は、携行した方がよい。ことにしょうゆは粉末製品があるので利用した方がよい。そのほか、香辛料、トマトケチャップ、トマトピューレ、酢、砂糖、塩類、しょうゆは輸入品が出回っている。ただし、輸入品はすべて高い。

### (3) 食料の入手

日本食品の入手先——日本食料品店はない。主として、ケニアのナイロビ、またはフランスのパリから携行してくることが多い。または日本から携行するか、送付依頼する以外、入手できない。

その他の食品の入手先——スーパーマーケットはClochd'or とDimitoriの2軒、ほかに、食料品店(Alimentation)が各地区にある。一方、中央市場(Marche Central)の利用も可能である。肉、野菜類はDimitoriスーパーの近くにある。

任国に特有な入手方法——ナイロビまで買出しに行く方法がある。一般に日本特有のものは、入手が困難である。日本における調達準備が望ましい。ことに、乾燥野菜、粉末しょうゆは便利である。

## 1-2 食器・調理器具など

### (1) 食器・調理器具などの入手

現地で調達できる家庭用電気製品、調理器具、食器類などは欧米、中国、日本製品であるが、特殊製品は注文発注が必要である。次の物品は、入手可能である。

冷蔵庫、電子レンジ、フライパン、鍋、皿、コップ、フォーク、ナイフ、スプーンなど

ただし値段は高く、品質の悪いものもあるので、製品の確認が必要である。



(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

食器・調理器具などは中国製品が多く、高級品はヨーロッパ製品となる。電気製品は電圧 230ボルトで、コンセントは 2本ピンタイプである。日本から携行した方がよい食器・調理器具類は、次の物品である。

電気釜（圧力式の方がよい）、トースター、ミキサー、まな板、すりばち、すりこぎ、茶わん、おわん、急須、湯飲み、調味料容器、包丁類、つまようじ、そのほか細かい台所用品など

1-3 外 食

(1) 飲食店

フランス料理 Chez Laurent (Sports Club) : 4,000～6,000フラン

Hotel Novotel : 3,500～5,500フラン

ギリシャ料理 Restaurant Helenix : 4,500～6,500フラン

中華料理 上海庁 (Restaurant Rendez-vous) : 3,000～4,000フラン

長城 : 3,000～4,000フラン

(2) その他の飲食店

ホテル内レストランで、ホテルはSource de Nil、Novotel、Lac Tanganika、Club Tanganika、Palace (Restaurant Dallas)、Pagidusがある。いずれも安心して利用できる。

そのほか、次のレストランがある。

Restaurant Nautique (フランス料理ほか) : 3,000～4,000フラン

Restaurant Oacis (肉料理ほか) : 3,000～5,000フラン

Restaurant Mandarin (鳥肉料理ほか) : 2,000～4,000フラン

Restaurant Jardinier (中華風料理) : 3,000～5,000フラン

Restaurant SITAR (インド料理) : 3,000～4,000フラン

## 2. 衣 料

### 2-1 衣 料

#### (1) 一般事情

1年中、夏スタイルで過ごせる気候である。したがって衣類は夏物で足りる。ただし、雨季は寒い日もあるので、上着が必要となる時もある。ブジュンブラ市の気温は平均 25～28℃で、暑い日は35℃となる。

衣類は現地産および輸入品の生地で、注文は可能である。一般販売品は品質の点で問題があり、外国人はほとんど自国製品を携行していて、あまり利用していない。

#### (2) 日本から持参した方がよい衣料

衣料は、すべて日本から携行した方がよい。上着、下着類、履物類、夏物が必要である。礼装用はタキシードは不用、一般の背広または婦人用のもので十分である。特に、下着類、乳幼児・子供用は多数必要である。ワイシャツ、スポーツウエア、パジャマ、帽子、履物類も準備が必要である。

#### (3) 任国で調達した方がよい衣料

特に調達するようなものはない。

#### (4) その他の留意点

ブルンディはブジュンブラ市を除き、山岳地帯であるので、出張する場合、あるいは高地での滞在時には、合服が必要となる。長袖、セーター（夏物）類は揃えるとよい。

### 2-2 礼 装

#### (1) パーティ

通常の服装で間に合うが、政府ベースあるいは大使館ベースのパーティでは、背広、ネクタイ着用のこと。婦人用も同等の服装となる。

#### (2) 式 典

通常の背広スタイルでよい。

#### (3) その他の冠婚葬祭

通常の背広スタイルでよい。

#### (4) その他の留意点

日本から持参した方がよい礼服（男性用、婦人用）は特にないが、夏服の白系、黒系の2種類は準備した方がよい。したがってワイシャツは白系、ネクタイもあわせて準備する必要がある。

### 2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

#### (1) 洗 濯

クリーニングは、ホテル以外にもあるが、仕上がりが悪い。家庭内で処理する方がよい。アイロンは現地で購入する方がよい。洗濯物は、必ずアイロンでプレス消毒が必要で、寄生虫による風土病の予防となる。電気洗濯機は現地調達できないので、用意できる場合、携行した方がよい。ただし、230ボルト用にする必要がある。

(2) 仕立て、修繕

紳士服、婦人服の仕立て、修繕店はあるが、技術が未熟であり、あまり利用されていない。テイラーがあるので、軽装夏物を注文する外国人もいるが、きわめて少ない。

(3) 保 管

### 3. 住 宅

#### 3-1 住宅事情

##### (1) 一般事情

ホテルで外国人の利用できるものは6軒あり、一流クラスは2軒である。市内には独立家屋の借家があるが、アパート、下宿は少ない。独立家屋の家賃は、10万～28万フランであり、10万～16万クラスが多い。治安、環境などは比較的よく、居住場所の選択で決まる。

##### (2) ホテル事情

日本人がよく利用するホテルは、次のとおりである。

Novotel：シングルは1万4,000フラン(87.50ドル)、ツインは1万6,500フラン(103.00ドル)、10%割引あり(大使館名義)、外貨払い

Source de Nil：80～85ドル(外貨払い)

Club Tanganika：8,000～1万2,000フラン(50～75ドル)

##### (3) 住宅の探し方

不動産紹介所はBureau Intercontact (TEL 26666 B.P. 982, BJM) が1軒市内にあり、Bureau Intercontact以外は知人の紹介となる。(Bujumbura = BJM)

外人向け居住地区は、次の地区である。

Kiriri、Mutanga、Rohero、Gatoke、Kinindo 地区

##### (4) 住宅の選定上の留意点

山沿い側か、湖水側か、あるいはその中間区域かによって値段が異なる

家具調度品付きか、家具なしか

車庫の有無。扉付きの有無

給排水、給電の状態

防犯設備、塀の状態

そのほか、環境、利便性、電話などについて

契約条件

以上の点を、特にマラリア病予防の立場で留意する必要がある。

##### (5) 住宅の契約

契約期間は1年以上が多い。ただし、場所によって2～6ヵ月がある。

支払い方法は1年または2～3ヵ月分先払いである。月払いの場合、月末翌月分支払いが多い。

現金で支払う。前払い金は2～3ヵ月分払い、あるいは1年分先払いである。家賃は10万～28万フラン(600～1,700ドル)である。

家具設備費は契約時に決めるが、家具付きの場合は家主負担となる。

補修条件は一般に、内部が借家人、外部が家主負担の例が多い。火災保険は一般に家主負担であるが、借家人の例もある。

##### (6) 居住上必要な事項

公共料金(電話、水道、電気)は借家人の負担であるが、手続上の条件があるので、要注意である。ゴミ処理は、市の中心部は、清掃車がくるが、一般に

は借家内に処理場所を設けて処理する。し尿処理は、各家とも浸透式で地下沈殿である。

(7) その他

環境および防犯対策上の問題点の有無を確認すること。改善作業を完全にする。次に、マラリア蚊の予防のため、防虫網が完全であるか否かを確認すること。要補修の場合、家主負担であること。そのほか、家屋内各部屋および出入口の鍵の完備、窓枠の鉄柵の完備が大切である。

#### 4. 医 療

##### 4-1 赴任前の準備

###### (1) 予防接種

黄熱病、コレラの予防接種が必要である。

注意事項としては、アルコール消毒、脱脂綿、注射器は準備のこと。

###### (2) その他の準備

マーキロなど消毒液、使い捨て注射器（重要）、脱脂綿、家庭常備薬などがある。歯科治療は完全にして赴任すること。眼鏡類は予備品を携行すること。

##### 4-2 医療事情

###### (1) 医療機関

（総合）病院：大学病院、クリニック

医師：フランス人医師、現地の医師

入院：入院は可能であるが、ケニアまたはヨーロッパとなる

###### (2) 緊急時の対応と措置

配属機関または国連機関に依頼する。あるいは、移動可能な場合、ケニアの中央病院を利用するか、パリまで出る。

##### 4-3 医薬品など

###### (1) 携行することが望ましい医薬品

頭痛薬、腹痛薬、下痢止め薬、歯痛止め薬、軟膏類、湿布剤などがある。できれば抗生物質剤など、使用経験済みのものがよい。

###### (2) 任国で調達できる医薬品

医薬分業で調達可能であるが、常時在庫があるとは限らない。目薬、虫さされなど日本製品がよい。マラリアの薬は、現地調達がよい。

###### (3) 任国で調達できる衛生用品

入手困難であるので、包帯、ガーゼ、脱脂綿、生理用品類は準備のこと。

###### (4) 医薬品を使用する場合の留意点

医師の処方せんが必要である。特に、マラリア蚊予防薬または治療薬は必要である。

##### 4-4 妊娠、出産、育児

赴任前に医師と相談するのがよい。

###### (1) 妊娠した場合の対応

###### (2) 出産後の対応

###### (3) 育 児

##### 4-5 手 術

###### (1) 任国で可能な手術

###### (2) 手術設備の状況

大学病院はあるが、ただし医師が少ない。手術はヨーロッパ人医師があたっている。

###### (3) その他の留意点

医師の応急処置後、ヨーロッパへの輸送例のみである。

#### 4-6 任国でよくかかる傷病

- (1) 一般の疾病  
皮膚病、眼病、百日咳、消化器系統の疾病、ガンがある。
- (2) 風土病・伝染病  
マラリア、結核、眼病、寄生虫病、エイズがある。
- (3) 有害動物、病害虫  
蚊、ハエ、毒ヘビ、毒グモ、毒蛾、ブヨがいる。

#### 4-7 保健衛生

- (1) 飲料水  
水道水を直接飲むことは可能であるが、煮沸して飲む方がよい。タンガニーカ湖利用の水道水であるが、雨季に入ると設備不良による汚れがある。
- (2) 濾過器の入手法  
特に必要としない。
- (3) その他の留意点  
生水の利用は避け、容器詰めミネラルウォーター（EVIAN、SPA）を購入するとよい。値段は1リットル入り1,040～1,100フランである。

## 5. 教 育

### 5-1 教育事情

#### (1) 一般事情

教育制度は、日本と同一である。小学校は現地の小学校32校、中・高校20校、専門校 2校、大学 1校がある。一般に高校卒業後、現地の大学に入学または、ドイツ、フランス、イタリア、ベルギー、モスクワの大学に留学する。施設、設備、教師の不足で水準は高くない。

そのほか、フランス系、ベルギー系の幼稚園から高校までが各 1校ずつあり、私立国際中・高校が 1校ある。主に外国人子弟が入学する。

ほかに、職業学校（会計、タイプ、英・フランス会話学校）がある。

#### (2) 日本人学校

ない。

#### (3) 現地校、外国人学校

日本人子弟入学可能な学校は、前記フランス系またはベルギー系となる。そのほかインターナショナルスクールがあるが、あまり席に余裕がない。

#### (4) 幼稚園

フランス系のL'ecole Francaise と、ベルギー系がある。

### 5-2 入学手続および授業料

#### (1) 日本人学校

ない。

#### (2) 現地校、外国人学校

現地校（フランス系またはベルギー系）は、大使館などの政府要人の紹介があれば容易である。しかし、直接尋ねられた方がよい。授業料はそのつど聞く方が確実である。

#### (3) 幼稚園

フランス系およびベルギー系の学校に併設されている。一般に 1学級下に入るのが通例である。語学はまったく知らなくても可能である。授業料はそのつど異なる。

### 5-3 教育関係施設

#### (1) 図書館

大学図書館のみであり、一般向けは各校（フランス、ベルギー系）内の図書館である。ほかに、アメリカ、フランスのカルチャーセンターがある。

#### (2) スポーツ施設

利用可能施設はホテル付属設備で、テニスコートはスポーツクラブ、ノホテル、クラブ・タンガニーカにそれぞれ水泳用プールとともに併設されている。

### 5-4 家庭学習

#### (1) 家庭教師

教科書の理解が困難であるため、語学、数学など各分野の家庭教師が必要である。したがって、入学あるいは編入校の教師に依頼する例が多い。



- (2) 通信教育
- (3) 携行した方がよい家庭用学習教材  
日本から携行するのが必須条件である。

## 6. 家庭の使用人

### 6-1 一般事情

コック、ハウスポーイ、庭番、夜番などが、各家庭とも最低 3人は必要である。一般にメイドは少なく、男子が多い。

### 6-2 運転手

#### (1) 雇用

知人の紹介と身元保証がないと安心できない。選考方法は、面接、実技試験、経験年数、語学、健康状態などで選別する。契約書は細部まで取り決める必要がある。試用期間、賃金、勤務時間、休日、禁止事項は明示すること。

#### (2) 日常管理

出退勤管理、燃料管理、保守点検、洗車など明示すること。部品は管理させない。

#### (3) 教育指導

運転マナーが悪い例が多いので、最初の厳しい指導が重要である。特に服装、履物、運転上の悪癖を直すことが大切である。

#### (4) その他の留意点

### 6-3 メイド／サーバント

#### (1) 仕事の種類と人数

人数は最低 2～3人必要であり、ハウスポーイ、庭番、夜番に相当する仕事のできる人が望ましい。ハウスポーイはコック兼用となる。

#### (2) 雇用

知人の紹介が一番よい。雇用条件は上記の運転手の項に準ずる。

#### (3) 日常管理

上記の運転手の項に準ずる。

### 6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

#### (1) 雇用

上記の運転手の項に準ずる。労働契約が重要である。

## 7. 交通事情

### 7-1 交通手段

#### (1) 一般事情

タクシーは、市内および国内用に 600 台あまりが営業している。また、マイクロバスの私営業車も多いが、外国人は利用しない。

長距離バスは、政府機関 (OTRACO) と私営のマイクロバスが運営されている。鉄道はない。

#### (2) 自家用車を利用する場合

市内地図 (200フラン) および全国の道路図があるので、利用するとよい。

#### (3) レンタカーなどを利用する場合

整備良好か否か、保証できない。

#### (4) 道路地図

ブルンディ全国の地図がある。

### 7-2 交通事故

#### (1) 対処方法

事故現場から警察に連絡のうえ、その処理を待つ。専門のミリタリー・ポリスが調査、保険手続を行なう。

#### (2) 救急病院

救急車があり、一般に市内の 2ヵ所のクリニックに入院することとなる。

#### (3) 盗難

一般の警察内に処理係があり、手続を必要とする。捜し出せる場合もあるが、現金、パスポートは不可能である。

### 7-3 交通違反

#### (1) 交通法規

右側通行、左ハンドルであるが、特に法規はない。しかし、駐車禁止場所はある。

#### (2) 対処方法

交通事故に準ずる。

### 7-4 車の修理

#### (1) 部品

一般に日本製車両の代理店、日産、トヨタ、三菱、松田、鈴木、ダイハツなどがあり、部品の入手は可能である。ただし、時間がかかる。

#### (2) 修理工場

工場は多数あり、部品次第では技術水準に問題はない。ただし、板金技術は劣る。工場の実績を参照のうえ、水準の高い工場を選択すること。

## 8. 通 信

### 8-1 電 話

#### (1) 一般事情

一般に普及率は低いですが、市内は徐々に増設されてきた。高級官僚宅、外国大使館をはじめ、外国人家屋にも増設されている。ただし、雨季には不通になることが多い。

#### (2) 国内電話

通話料は 1回20フランである。空港ホテルで借用すると、1回50フラン請求される。

#### (3) 国際電話

運輸郵政省管轄の電話局交換台（16番）に申し込む。日本との通話は、時差が7時間あるため、午前中に申し込むこと。5分以内に通話可能となる。日本からは、直接ダイヤルインで連絡がつく。

### 8-2 電 信

#### (1) テレックス

電話同様、午前中（現地時間）を通じやすく、配属機関のテレックスまたは郵便局のテレックス利用がよい。日本とは2分で1,620フラン、3分で1,956フラン、4分で2,608フランで、これに7%の税金がかかる。

#### (2) ファクシミリ

電話がある場合、設置可能である。

#### (3) 電 報

テレックスと同様、郵便局で申し込む例が多い。

### 8-3 郵 便

#### (1) 一般事情

郵便局（PTT）は1軒のみで、日本まで通常3週間から1ヵ月あまり要する。ただし、空港から国際便（AFまたはSN便）にあわせて直接出すと、2週間以内で日本に到着する。日本発では、普通3週間から1ヵ月、アメリカからは2週間ぐらいを要する。

#### (2) 課 税

郵便小包は郵便局の手数料のほか、関税率に従って課税対象となる。J I C A 専門家の場合は、免税手続を配属機関責任者名で申請する必要がある。

## 9. マスコミ

### 9-1 新聞

- (1) 主な日刊紙  
フランス語版のタブロイド・サイズの「Le Renouveau」紙 1紙のみである。
- (2) 本邦日刊紙  
OCSに購読の申し込みができる。ブルンディの場合、ロンドン経由で国際版の入手が可能である。料金は、OCS社（東京）に支払う。発刊日より 7～10日遅れで入手できる。
- (3) 欧米紙  
「New York Times」、「Time」、「ルモンド」、「フィガロ」などは 7～10日の遅れで入手できる。ただし、大使館の場合は別扱いで多少早い。航空便の到着日により多少差がある。配達はすべて P.O. Box あてで、一般郵便の取扱いと同一である。

### 9-2 ラジオ

- (1) ラジオ放送局  
市内に 1ヵ所ある。FM放送で、フランス語またはキルンディ語（現地語）である。
- (2) ラジオジャパン  
短波放送は、受信可能である。ローカルタイムで、日本語放送は、午前10時（21.690メガヘルツ）、午後 6時（21.700メガヘルツ）の 2回受信できる。周波数は常に変更されるので、NHKに確認する方がよい。
- (3) 任国で聴取可能なその他の外国放送  
フランス、ドイツ、南アフリカの放送や、アラブ圏の放送も聴取可能である。そのほか、モスクワ放送も入ってくる。

### 9-3 テレビ

- (1) テレビ放送局  
ラジオ同様、国営放送局で、夕方から夜間までの 3時間から 5時間の放送である。
- (2) テレビ受信  
受信方式は SECOM 方式で、モノクロおよびカラーの混合形式である。

## 10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

### 10-1 映画、演劇

#### (1) 映画館

映画館は 1軒、夜間のみ営業である。

#### (2) 劇場

演劇場はない。

### 10-2 出版・書籍

#### (1) 一般事情

印刷技術が未熟のため、輸入刊行物に頼っている。したがって、出版活動らしいものはない。

#### (2) 書店

専門店は 1軒あるが、冊数は少ない。月刊誌（日本の週刊誌に相当）は各地区にある。

### 10-3 語学学習

#### (1) 語学学習施設

教師による会話学校程度である。しかし、アメリカ、フランスのカルチャーセンターで、語学講習を受けることができる。

#### (2) 家庭教師

大使館および学校教師に依頼が可能である。

### 10-4 文化活動、文化施設

#### (1) 一般事情

アメリカ、フランス、ソ連のカルチャーセンターのPR活動程度のものである。ミニ博物館は、ブジュンブラ市内に 1ヵ所、ギテガに 1ヵ所ある。

#### (2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

特になし。在留邦人に興味のあるものとしては、民族博物館がある。

#### (3) その他の文化活動、文化施設

### 10-5 写真、ビデオ

#### (1) 写真

フィルムはコダックか富士フィルムがある。DPEサービスは 2ヵ所のみで、技術は向上してよくなっている。カメラは輸入品が多少ある。

#### (2) ビデオセット

VHS、ベータ方式のいずれもある。ほとんどが個人搬入で、普及されている。

#### (3) ミュージックテープ

多数販売されている。パキスタン系の店で販売されている。

### 10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

#### (1) 音楽会、コンサート

該当なし。

#### (2) コーラス、演奏グループ

該当なし。

- (3) ピアノなど  
該当なし。
- (4) レコード  
該当なし。
- (5) 民族楽器  
該当なし。
- (6) その他の楽器  
該当なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

- (1) 手 芸  
民芸品は多数あるが、地方生産で、市内では販売店のみである。直接調達是不可能である。
- (2) 絵画、美術工芸  
国営土産店が 1軒あり、ほかに空港土産店で民芸品、絵画などが販売されている。

10-8 趣 味

- (1) 園 芸  
種苗は植木屋で入手できる。
- (2) 釣 り  
タンガニーカ湖で小魚程度が釣れる。ボートフィッシングは個人用以外ない。釣り道具用品の店がないので、日本で調達・準備する方がよい。

10-9 娯楽、遊戯など

- (1) 娯楽、遊戯、ゲーム  
該当なし。
- (2) 芸能興行  
該当なし。

10-10 スポーツ

- (1) ゴルフ  
国営ホテルのSource de Nil の付属馬場があり、会員制である。入会金は 4万円程度である。用具は貸してくれるが、一般に、すべて個人が携行している例が多い。
- (2) テニス  
ホテル付属設備としてある。スポーツクラブのほか、ノホテル、クラブ・タンガニーカにある。会員制である。
- (3) 水 泳  
テニス場と同一場所で、前項のとおりである。
- (4) その他のスポーツ、用具、ウエア  
その他のスポーツとしてはフットボールがあり、国営競技場が市内に 3ヵ所ある。
- (5) スポーツクラブなど

Source de Nil のそばにスポーツクラブがある。会員制で入会可能である。

10-11 風俗営業

ディスコが郊外に 3ヵ所、現地住居街にあるが、現地の人のみ利用している。

10-12 子供の遊び

主として、フットボールのほかホテルのプールでの水泳が多い。



## 11. その他のサービス

### 11-1 美容院

Source de Nil Hotel の地下のほか、街中に看板が目立つのでわかる。外国人は、ギリシャ系またはベルギー系の人が個人的に営業している。

### 11-2 理髪店

同上。

### 11-3 日本より持参した方がよい美容・理髪用品

一般化粧品は持参した方がよい。輸入品はあるが、肌に合うか否かわからない。

## 12. 観 光

### 12-1 地方旅行上の留意点

外国人の国内旅行の制約はない。治安状況は一般によい。

市内の見どころ：博物館およびヘビ園

市外の見どころ：タンガニーカ湖畔、スールス・ド・ニル、キルンド湖畔

交通手段：自動車利用のみ

### 12-2 主要観光地・保養地ガイド

タンガニーカ湖畔：クラブ・タンガニーカ、ホテル・タンガニーカ、シャトウ・ムース砂浜

スールス・ド・ニル：ナイル源流地、ピラミッド

キルンド湖畔：キルンド・ロッジ

### 12-3 旅 行

#### (1) 自動車

全国主要道路地図は、ホテル、空港で入手できる。満タンで往復できる地域が多いが、国内東部地区は 2日間要するので、補助タンク携行が必要である。ガソリンスタンドは、地方にはない。

#### (2) バス

国内長距離サービス網は、バス公社 (OTRACO) が運営しているので、問い合わせるとよい。料金は 1キロメートル 6フランである。ただし、一般に外国人は自家用車利用がほとんどである。

#### (3) 鉄 道

ない。

#### (4) 航空機

国内線はない。

### 12-4 エージェント

政府機関の旅行エージェントがあるので、問い合わせるとよい。

### 12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

ホテルで問い合わせ確認・依頼する。

### 13. 治安、緊急時の心得

#### 13-1 暴動、クーデターなど

##### (1) 緊急時の連絡

配属機関のテレックス網を利用している。東京JICAあての連絡が一番確実である。ブルンディは、在ザイール（キンシャサ）の日本大使館が管轄であるが、連絡は不可能である。今回、無線機器を設置する予定である。

自家用車は休日前には満タンにしておくことが重要である。1タンクでは近隣諸国に脱出することは困難であるが、補助タンクを用意しておけば問題はない。一方、間に合わない場合、自宅で動かず、使用人を使い情報の入手にあたるのが望まれる。脱出用外貨およびパスポート以外はすべて棄てる必要がある。

#### 13-2 強盗、盗難

##### (1) 一般的治安状況

住宅街から離れた場所にある建物は、ねらわれやすい。ふだんの生活態度や高圧的態度が反感を買い、過去に強盗に押し入れられた例がある。特に、現金保持をみせびらかす日本人もいるので、注意が必要である。

##### (2) 防犯対策

ガードマン、犬、錠、鉄柵、警報装置（Megaphone with Siren、JICA支給品）は必要であるが、夜間はガードマンも100パーセント信頼できない。家の周囲の塀を破られて被害を受けた実例もある。したがって、念には念を入れることが重要である。

##### (3) 被害時の心得

警察に届け出ることが必要である。解決は期待しない方がよい。防犯対策に重点をおくべきである。

#### 13-3 火災、風水害、地震

##### (1) 一般的災害発生状況

火災または地震による災害例はない。洪水例としては、市内を流れる川の下流地域で、家屋が流失移動した例がある。ほかに、崖崩れによる死傷例がある。最近の災害例では、並木の大木が倒れた実例があるので、雨季は要注意のこと。対洪水河川工事は実施されている。

大雨季における交通網の把握と注意、避難する場所などをふだんから決めておくことが必要である。

##### (2) 防災対策

近く無線機器利用の無線連絡が可能となるが、通信連絡網をあらかじめ決めておくことが重要である。また、JICA専門家の場合には、生活環境整備計画として、無線機器の支給があるので、改善されつつある。

##### (3) 被災時の心得

食糧備蓄に関しては、常時備蓄した状態の生活が必要である。

緊急時の心得は、どこへ行ってもそうであるが、パスポートと外貨の所持であることに変わりはない。

## 14. 出入国手続および帰国手続

### 14-1 入国時

- (1) 空港施設概要  
空港案内図（図 1）を参照されたい。テレックス連絡があれば、出迎えは容易である。
- (2) 入国手続書類  
手続は、入国カード（英文・フランス文）と、外貨持ち込み申請書を記入するのみである。
- (3) 入国審査  
入国ビザ欄確認後、完了である。特に問題はない。
- (4) 税関検査  
手荷物検査のチェックは必ずある。関税該当品持ち込みの場合、JICA専門家は、予定配属機関の責任者の同行があれば、可能である。アナカンの別送荷物は免税手続後、引き取る。これも配属機関に依頼、免税手続を要する。
- (5) 空港内での留意点  
手荷物品に十分配慮すること。出迎え者がある場合、空港内での換金は不要である。
- (6) 空港からのトランスポートーション  
タクシーは常時待機しているので問題はない。料金は街の中心部のホテルで換金後、支払う方がよい。1,500フランである。
- (7) その他の留意点  
滞在予定地の記入は、Novotelというホテルにするのがよい。ほかに Source de Nilがある。

### 14-2 出国時

- (1) 出国時の概要  
出国手続は、図 1を参照されたい。
- (2) 出国手続上の留意点  
出国はビザの問題のみである。再入国の必要がある場合、あらかじめビザ申請を必要とする。滞在ビザのほか、6ヵ月有効の出入国ビザを申請しておき、常に更新を忘れぬこと。（無料）

### 14-3 帰国手続

- (1) 帰国時に必要な事務手続  
滞在ビザが有効期間内の場合、再入国不要と申し出れば問題ない。パスポートおよびイエローカードの提示だけでよい。ただし、ときに外貨申請書（入国時記入のもの）の返却を求められる場合があるので、入国後保管し、帰国時には提出準備をしておくこと。要請のない場合は、不要である。
- (2) 車の処分  
帰国決定日の3ヵ月前から売却手続が必要である。輸入時の税関証明書のオリジナルの提出をし、買い手側の税金支払い後、売却できる。したがって、準備期間を長く取る必要がある。正規手続による外貨取得はたいへんであり、事

前の申請、外貨の申請事由書、トラベラーズチェックの買取など、手続が面倒である。また、全額支給されず、大半が送金の形となり、トラベラーズチェック以外は支給されない。すなわち、現金での外貨取得は不可能である。

(3) 家財道具の処分

輸送コストを考慮して、現地の人に安値で売却するか、または贈与の形となる。必要最小限度のもののみ、梱包して空港まで搬入のうえ、航空会社で手続をすませ、送付するのがよい。業者はAMIなどがあるが、高くつくので一般には利用しない。大型荷物を搬入する場合のみ、業者に依頼する。

帰国時の荷物の種類が公私にわたる場合、明確に区別して、書類で残すことが大切である。

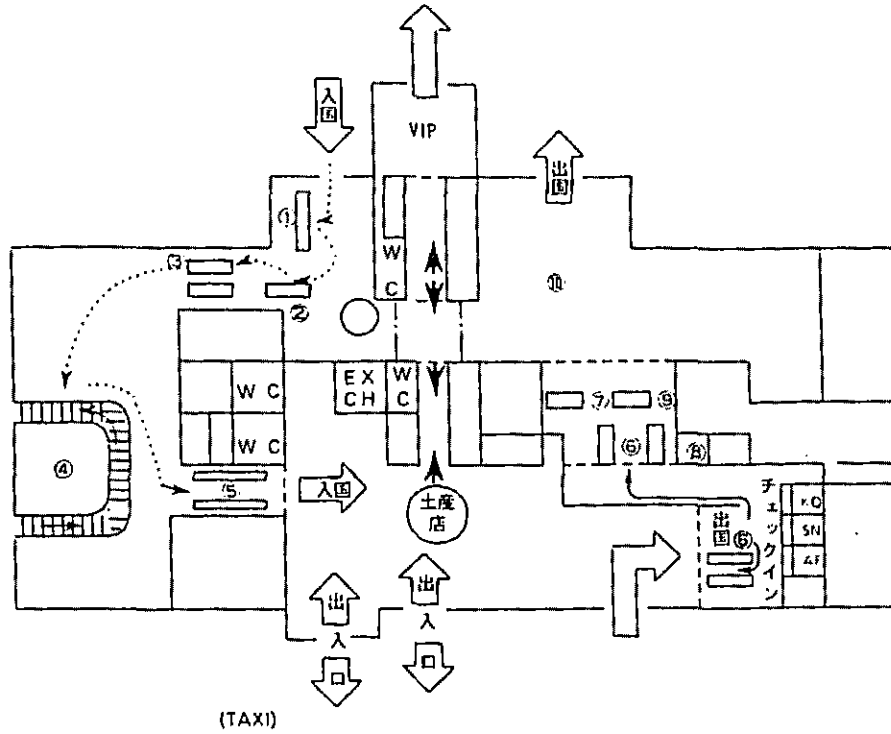
(4) 住宅の明け渡し

契約条件で、通常 2ヵ月前に通知する例が多い。したがって、帰国日から逆算して、家屋の明け渡し日、ホテルへの移動日をできるだけ限定するのがよい。その際、電気・水道料金および電話料金の精算が必要である。支払い証明書を税関で求められる場合もあるので、要注意である。

(5) 銀行口座の閉鎖

移動準備完了後、手続する。簡単なので、日時など自由に決めて差し支えない。

図1 ブジュンブラ空港ターミナル



- |            |                   |
|------------|-------------------|
| ① 持参外貨申請   | ⑥ イミグレーション        |
| ② イエローカード  | ⑦ 手荷物チェック (X-RAY) |
| ③ イミグレーション | ⑧ ①の返却            |
| ④ 手荷物      | ⑨ ボーディングカード       |
| ⑤ 税関       | ⑩ 待合室             |

## 15. 私財の輸送、引き取り、購入

### 15-1 家財道具

#### (1) 輸送業者

Interfreight Burundi

住 所 B. P. 698, Bujumbura

電 話 2-5967、2-5575

テレックス 5020 (INTER BDI)

ファックス 2-3993

AMI Burundi S. A. R. L.

住所 B. P. 750 Bujumbura

電話 23975

Office des Transports du Burundi (OTRABU)

住所 B. P. 1486, Bujumbura

#### (2) 輸入手続

輸送品目リスト作成の業者に依頼する。船積み書類を作成しオリジナルとコピーを保管後、目的地の住所・氏名あて、あるいは業者あての船荷証券 (Bill of Lading : B/L) を入手する。その際、船積み書類のオリジナルおよび同書類中の B/L を提出しないと引き取りはできない。重要書類であるので、忘れぬこと。

輸出入業務は、業者に依頼すればすべて必要な書類作成のうえ、オリジナル書類を入手できる。引き取りの際、オリジナルが有価証券である。

### 15-2 自動車

#### (1) 一般状況

#### (2) 輸入手続

日本から新車を輸入する場合、輸送費 (海上運賃、内陸輸送費)、保険料など CIF Price で FOB Price の約 2.5 倍要すると考えればよい。ただし、新車の重量は、約 1 トンあまりとする。免税手続を要する場合、配属機関名で申請のうえ、許可をとればよい。

関連書類は大切に保管することが重要で、帰国するまで保管が必要である。

#### (3) 任国での購入

自由取引であるが、免税車か、税金を支払うのか、関連書類の確認が大切である。決済方法は、円建てまたはドル建てなどにより決まるが、任国内は原則として任国の通貨で行なう。

輸入業者は、各種エージェントがあるので、購入は容易である。日本から輸入の場合、平均 6 ヶ月要する。

なお、現地通貨で輸入したい場合、中央銀行に外貨申請することが先決である。業者に問い合わせると容易にわかる。

#### (4) 自動車登録

輸入時の船積み書類を添付し、さらに免税申請書コピーなどを添付のうえ、規定の用紙に記入、申請する。関連書類は返却してくれる。現地購入の場合、

エージェントで税関証明入手のうえ登録申請すること。登録申請料および課税される額は、年々変更されて上昇している。8,000～9,000フランが必要である。ナンバープレートは、Import Temporaire (IT) Naである。税関事務所は、タンガニーカ湖の港に新事務所があり、登録申請は街中心部の6階建てビルの2階にある。

(5) 免許証取得

国際免許証で通用する。現地の免許証に更新する必要はない。

(6) 保険、税金

保険料は All Risksで約28万5,000フラン、最低で2万5,000フランであるが、年間払いで、部分払いもできる。自動車保険料支払い専用事務所がある。税金は、輸入時の総額の15%である。1991年度から10%になる予定である。



16. 社 交

16-1 風俗習慣

キリスト教徒が大半であるので、ある程度宗教上合わせる必要がある。

16-2 パーティでの留意点

政府関係か、民間ベースか、家庭関係間かで異なるので、出席者の意向を確認するのが早くて確実である。

16-3 来客時の留意点

来訪目的により異なるが、特に注意することはない。相手の服装で判断できる。

16-4 訪問時の留意点

相手方とのアポイントメントをとることが重要である。予告なしの訪問はしないこと。

16-5 禁止されている言動

特に注意すべき点はない。

17. 任国官公庁

勤務時間は、午前中 9:00～12:00である。したがって、ビザ申請は午前中にする  
こと。

18. 在外日本関係機関など  
関係機関はない。在ザイール日本大使館が兼轄している。

## 19. 地方都市

## 任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

### アジア地域

1. バングラディシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. 中華人民共和国
5. インド
6. インドネシア  
(ジャバ、スマタラ、ジャワ、スマタラ、バン)
7. 大韓民国
8. ラオス
9. マレーシア
10. ミャンマー
11. ネパール
12. パキスタン
13. フィリピン
14. シンガポール
15. スリ・ランカ
16. タイ (バンコク、チェンマイ、コロン)

### 中近東地域

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタル
9. サウディ・アラビア
10. 南イエメン
11. スーダン
12. シリア
13. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦 (ドバイ)
15. イエメン

### 太平洋地域

1. フィジー
2. マーシャル
3. ミクロネシア
4. パプア・ニューギニア
5. ソロモン
6. ヴァヌアツ

### アフリカ地域

1. ブルンディ
2. エチオピア
3. ガンビア
4. ガーナ
5. コートジボアール
6. ケニア
7. リベリア
8. マダガスカル
9. マラウイ
10. モーリシャス
11. ニジェール
12. ナイジェリア
13. ルワンダ
14. セイシェル
15. ソマリア
16. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
17. トーゴ
18. ザイール
19. ザンビア
20. ジンバブエ

### 中南米地域

1. アルゼンティン
2. ボリビア (ラパス、ウユニ)
3. ブラジル  
(ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グアテマラ
10. ホンデュラス
11. メキシコ
12. パナマ
13. パラグァイ (アスンシオン、コロン)
14. ペルー
15. トリニダード・トバゴ
16. ウルグァイ
17. ヴェネズエラ

## 任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

〔送付先〕 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5  
 国際協力センタービル  
 国際協力事業団国際協力総合研修所  
 技術情報課 任国情報係

国名		年度	年版
----	--	----	----

氏名		年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間		
JICA役職員					
JICA専門家等					
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)		
住所					
電話番号		日付	年	月	日

ページ	行	内 容

国 総 研 記 入 欄					
記 事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月 日	月 日	月 日	月 日

